進路だより No.5

北海道別海高等学校進路指導部 ２０１９．９．４



大学視察研修報告

８月２～４日、１・２年生の生徒１７名が大学視察研修に参加しました。この研修は別海町の将来を担う人材を育成するために、町の補助を受けて行われているものです。生徒たちは大学の施設を見学したり模擬授業を受けたりして、見聞を広め、向上心や向学心を養いました。見学先は、１日目：酪農学園大学、２日目：北海道医療大学・北海道教育大学札幌校・北翔大学・北星学園大学の中から希望する大学、３日目：北海道大学です。

参加者の声　～研修を通じて変化したこと～

今回の研修で、「大学生」が少し身近なものになりました。これまでは「大学生」と聞くと、勉強もして家事もする、すごく大人なイメージでした。しかし、実際に接してみるとクラスにいるようなお調子者でおもしろい人がいたり、笑顔で友だちのように話しかけてくれる人がいたりと、「すごく大人」から「年上のお姉さん」、「お兄さん」というイメージに変わりました。

それでも、やはり違うと思ったのは「顔」です。案内をしてくださる大学生、学科の説明をしてくださる大学生、写真に写る大学生、みんな顔が輝いていました。夢や目標を持って頑張っている人の顔はすてきだと思いました。それと同時に自分もあんな顔で大学生活を送りたいと感じました。　（佐藤優衣さん）





北海道教育大学の教育心理学の講義で聞いた大学生の話が印象的です。彼女は高校時代にボランティアの集団を作り、地域の人たちのために活動していたといいます。それでも満足できず、大学に進学し、学んでいる･･･。自分と同じ高校生の時にボランティアの集団を作り、地域貢献をしていたのかと、自分との意識の差をはっきりと感じました。もっと周りに興味を持ち、当たり前の日常の中で疑問点を発見できるようにならなければならないと思いました。

（菅野悠くん）



１日目のバスで聞いた「心で話を聞けるかどうかで、この３日間で得るものが変わる」という言葉が印象に残っています。自分のために、自分以外の人のためにたくさん学ばなければならないと思いました。話を聞くだけが学びではなく、話を聞いて、それを受けて考え行動に移すことが学びだと気づきました。学びはつながっているのかもしれません。学ぶことで自分の幅が広がっていく、そう感じることができた貴重な研修でした。

（藤原遥翔くん）

この研修を通して、普段は通り過ぎてしまう「なぜ」を、踏みとどまって、考えて調べて答えを探すことの重要さを感じました。

僕はこれまで学歴は就職する上で重要なものだと考えていました。しかし、研修に参加して、学歴以上に、はるかに「人としてどうなのか」ということの方が重要だということに気がつきました。学生たちはオープンキャンパスで僕たちが困らないように、楽しめるようにと色々なところでボランティアをしています。苦と思わずそういうことができるのは心から楽しんでもらいたいという思いを持っているからなのだろうと思います。相手のことを思いやる気持ちや、感謝の気持ちを持った大人になりたいと僕は思います。僕がこのような経験ができたのは、色々な方々の支えがあってこそだと思います。このことを忘れずに学んでいきたいです。

（伊藤柊平くん）



